

夏の飼料のはざかい期をどう切抜けるか!!

岡山県酪農試験場 岸川良吉

6月の声をきくと第一に頭に浮ぶのは長雨の事です。飼料作物の面から考えると、冬期の飼料確保について、大変大切な月と申せます。長雨が明けると今度はかんかん照りで作付は勿論、玉蜀黍の葉さえもまき上ってしまう様な暑さが来ます。そして秋冬作である燕麦もイタリアンも終わってしまうので、6月は夏の準備期として大切な時期であります。

特に水田地帯では田植と作業がかさなり、又畑地帯では冬作から夏作への衣替えの時期になります。家畜は毎日多量の青刈飼料を必要とし、この時期の衣換えをうまく行わないと、人間では風邪を引く様に家畜の飼養に思わぬ失敗をし、暑さによる衰弱とともに飼料不足から来る能力の低下も有ると覚悟しなければなりません。

そこで今回はいかにしてそれを乗切るか、その対策について書いて農家の皆様の御参考に使いたいと思います。

1、梅雨時の畦畔利用しよう

水田地帯では稲を作る為に、特別に飼料用転換畑を持たないかぎり、6月以降は飼料作物を獲得する場所がないこととなります。その為にはやはり今迄裏作に作っていたレンゲ、イタリアンは勿論の事、水田に出来ている雑草でも無駄なくサイロに又乾草として確保しておく事が大切です。この他次の点も必要です。

先ず畦畔利用です。梅雨期は畦畔の草もよく伸びます。近頃は畦畔の草を利用しない農家も多いから、近所のを利用させてもらえる場所があればこれを大いに利用しよう。この時期の畦畔草は栄養的にも高いものです。それから従来人間の食糧として畦畔に作っていた大豆を青刈大豆にかえるか、条播にして一部を家畜の飼料とする事も、梅雨時の飼料の確保と盛夏時の貯蔵飼料の引延しに役に立ちます。ただ注意することは、肝蛭の常在地帯では地域的駆除を行うか、青刈を直ちに利用しないで出来るだけ日光にあてて半乾燥にして給与することです。

2、夏用飼料作物の播種をしよう

次に畑作ですが、畑作においても6月は丁度冬作と夏作の交替する時期にあたり、次に来る7、8月の飼料確保の点から重要であるばかりでなく大変むずかしい月です。又考えによってはこの月は気温も高く水も充分に有るのだから、夏作としての玉蜀黍、大豆、ソルゴー、テオシント等は発芽も早く作りやすい時期でもあります。それに畑作だけで酪農をやっている農家は少なく、畑と水田、畑と牧野の組合せで経営をして居る方が多いと思うので、前述した水田裏作の貯蔵と畦畔の利用、牧草と畑の飼料作物利用の組合せによって、盛夏時の飼料はまかなえる事でしょう。

ただこの時期は田植の時期とかさなる関係上、一般にこの方に力が入り、とかく飼料作物の作付をあつと廻しにする傾向があるが、これは十分注意をすることが必要です。大体青刈の飼料作物は種を播いて60~70日目頃利用するものですから、6月の播付に失敗すると丁度暑さのはげしい8月頃の飼料に困る事になります。一日も早く播種し、心配のない様にしておいて田植にかかりたいものです。

とうもろこし

先ず、玉蜀黍について述べて見ましょう。播種の適期は5月中旬頃で、既に4月下旬か5月上旬頃に第1回の播種をして早い方は利用して居ると思いますが、6月は第2回目の播種時期にあたります。

酪農試験場の成績を見ても、玉蜀黍の播種は7月中旬までは6千kg程度は取れますが、7月中旬以降になると収量もぐんと減少する事がわかっております。

青刈大豆

次に大豆ですが、同様に酪農試験場の成績を見て考えると、玉蜀黍と同様に7月中旬ぐらいまでが収量を上げる事の出来る播種期と言えます。田植前にぜひ種まきを終わりたいものです。盛夏の飼料確保は

岡山畜産便り 1964.06

この点がポイントになります。

これら二つの飼料作物は夏の大切な作物ですが、しかし残念な事に一度刈取ると再生しません。6月に播いて8月上中旬に刈ると、次にカブをまくまで飼料にこまる事になります。その点ソルゴー、テオシント、スーダングラス等は暑さにも強く、8月に刈っても再生するので一部の畑に作付して置く事も必要と思います。そこでこれらについて試験場の成績を参考にしながら、栽培の要点等について述べて見る事にしましょう。

ソルゴー、テオシント、スーダングラス

第1～3表の成績から考えますとスーダングラスを除くテオシント、ソルゴーは6月中旬頃までが播種期で、しかも盛夏に刈取っても再び収穫をあげえる事がわかります。

テオシントはご存知の様に栽培適地としてはもともと、熱帯および亜熱帯の湿潤で肥沃な土壤でよく生育するものですから、肥沃湿潤で水田地帯の輪換畑の様な所が適して居ります。

スーダングラスはテオシントと全く異なり、湿潤を嫌うので、排水良好な肥沃な砂質土を選ぶ必要が有ります。

ソルゴーは前二者に比較してわりに栽培が容易であるが、スーダングラスと同様な土地に適し高温多湿である事が必要です。病虫害についてもスーダングラスはスモン病の被害が近年多く見られるが、ソルゴーは耐病性があり強健で収量も多いため、これから大いに栽培されてよい作物でしょう。

いずれにしても、これら三者は、多肥作物であるという事を心にとめて置いて戴きたいと思えます。これらは夏の飼料作物の主力であるが、これ以外にもカウピー、つる豆、甘薯等も夫々の特徴を研究して作付してよいものです。

3、牧草の病害と夏枯対策

牧草は酪農家であれば大なり小なり作っているが、6月から8月にかけて大切な管理は病害と夏枯の問題と思えます。

牧草は梅雨時期が最も多量に収穫出来る反面、シラキヌ病が多発して株は枯死し、続いてくる夏の暑

さの為に見るかげもなく牧草が荒はいしてしまう事が有ります。勿論夏枯の現象は牧草本来の整理状態からも考えられるが、管理の不適當から起きる原因も有るわけです。シラキヌ病は梅雨期から初秋まで雨の後に急にひろがるもので刈遅れ、過度に繁茂した畑、水田輪換畑、灌漑した畑等の多湿度の所で発病しやすい。防除法としては刈遅れない様に注意し、牧草がむれない様にする事が実用的な方法といえます。即ちせつせと刈取って下さい。そして7月中旬には一応刈終り、今度は夏枯を用心する為に葉が畑一面に軽くおおう状態で8月の厚い時期は休ませる様にすればある程度の夏枯を防ぐ手段ともなり、秋の回復を早め利用年数を伸ばす事にもなります。勿論春から充分肥料（根茎を強くする為に）を施し病気に抵抗力をつけておく事も必要です。

以上6日から夏にかけての飼料作物のはざかい期に対する主な作物の栽培の要点を述べたのですが、要は、牛は毎日良質の飼料作物を一定量必要とし、この事が夏の健康を維持し牛乳を生産する事になるのですから、前述した種々の青刈飼料作物類、牧草、畦畔草、裏作による貯蔵飼料を各々の経営事情を考えながら上手に組合せ作付、利用して行く事が夏の飼料対策ともなり酪農を有利に展開する途にもなります。

第1表 スーダングラスの播種期別収量
酪農試験場S35年

播種期	刈取回数	収量合計
5月1日	4	7,022Kg
5月15日	4	8,366
5月30日	3	6,750

第2表 ソルゴーの播種期別収量(愛知農試)

播種期	刈取期	収量
6月14日	8月31日	5,895Kg
6月30日	9月12日	6,083
7月15日	10月5日	5,081
8月5日	11月11日	2,689

第3表 テオシントの播種期別収量(九州農試)

播種期	刈取回数	収量合計
5月30日	2	10,263Kg
6月15日	2	9,135
6月30日	2	8,113
7月15日	2	5,574
7月30日	2	2,892